

ジョセフ・ヒコ ～漂流民、そして新聞の父に～

2015年(平成27)播磨町郷土資料館開館30周年に際して作成した『播磨町文化遺産散策マップ』の表紙に、播磨町の偉人の一人、ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵 幼名:彦太郎)について次のように紹介されています。

彦は、天保8(1837)年播磨町古宮に生まれました。船乗りの家に育ち、13歳のとき船で江戸に行き、その帰りに暴風雨に会い52日間太平洋を漂流します。米国船に救助された彦らは渡米し、新聞に掲載されて全米の話題となりました。ガス燈や蒸気機関車など近代文明を目の当たりにし、大統領と会う機会も得た彦は民主主義に強く共感します。そして、カトリックの学校で学び洗礼を受けてジョセフ・ヒコと改名し、米国市民権を取得したヒコは、優れた英語力を活かし、横浜の領事館通訳として帰国します。元治元(1864)年、外国人排斥の危険な風潮が広がる中で、外国の実情を日本に伝えたいとの強い思いから、日本初の民間新聞「新聞誌」を発行します。のちに「海外新聞」と改題し、外国の新聞の翻訳をはじめ輸出入品の相場、米国の歴史などを掲載しています。

子どもにも読める平易な文章、定期的な発行、広告の掲載といった「海外新聞」のスキーム(枠組み)は、今日の新聞の土台を築いたものとして高く評価されています。その後、高島炭鉱の開発や大阪造幣局設立に尽力したほか、渋沢栄一のもとで国立銀行条例の編纂にも携わりました。明治8(1875)年～明治21(1888)年は神戸で暮らし、その間、製茶貿易や蒸気機関による精米所の経営などを行っていました。また、播磨町に立ち寄り蓮花寺に両親と家族の墓を建立し、地元では「横文字の墓」として親しまれ、ヒコの功績が記された看板が立てられています。明治30(1897)年に他界したヒコは、東京青山の外人墓地に葬られています。



○ヒコの生家跡

ヒコの生家跡は、播磨町古宮の古宮港(右写真)から少し北に入った集落にあります。今は看板だけが立っています。当時は家から播磨灘を一望できたと思います。今は埋め立てられ、工場が南にあり、海がみえる部分は少ないです。



○蓮花寺(北本荘7丁目) 横文字の墓(町指定文化財)

「明治三年十一月」と右側面にあり、背面に「ERECTED TO THE MEMORY OF HIS PARENTS & FAMILY BY JOSEPH HECO. December.1870.」と刻まれています。墓は、南の門を入れて正面に本堂が見える右手にあります。他の檀家の墓とは違い特別な場所にあります。



吉村昭の小説『アメリカ彦蔵』(新潮文庫)には、ヒコは3度故郷を訪れ、2度目の時に英文の墓の注文をした様子が次のように描かれています。



彦蔵は、鞆から紙とペンを取り出し、英語で「両親ト家族ノタメニコレヲ建テル」と書き、by Joseph Heco と記した。名前を Hico と書くトハイコと呼ばれるので、Heco と書くのを常としていた。それまで平静な表情をしていた石寅は、驚いたように英語の文字を見つめた。そのような文字を刻んだことはもとより、眼にしたこともない。かれは、茫然としてその文字を見つめ、字の形を指で何度もなぞり、ようやく納得したようだった。

○浜田彦蔵の碑(播磨町立播磨小学校敷地の南隅)

昭和35(1960)年に日米修好百年を記念し、播磨町(阿閑村)が建立しました。

○「兵庫大仏」のある能福寺(兵庫区)のジョセフ・ヒコの英文碑

神戸港に着いた外国人客が神戸のマスコットであった「兵庫大仏」に多数参拝に来るところから、能福寺の住職がヒコに依頼して寺の縁起を碑の上部に英文で刻む。明治25年頃に作られました。能福寺は天台宗最澄開基の寺。「兵庫大仏」は明治初年に建立。日本三大大仏の一つ。昭和19年解体、平成3年再建。



○ジョセフ・ヒコの略歴 ※漂流民では土佐出身のジョン万次郎(1827/28-1898 咸臨丸通訳で渡米)が有名

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 天保8年(1837) 播磨国加古郡古宮村に生まれる | 安政7年(1860) アメリカ側通訳として万次郎と会う 領事館辞職 |
| 嘉永3年(1850) 栄力丸の17人が漂流 | 文久2年(1862) 渡米しリンカーン大統領と会う |
| 嘉永4年(1851) サンフランシスコに着く | 文久3年(1863) 漂流記を刊行 |
| 嘉永6年(1853) ビアース大統領と会う | 元治元年(1864) 「新聞誌」を刊行 翌年「海外新聞」と改題 |
| 安政4年(1857) ブキャナン大統領と会う | 明治2年(1869) 大阪造幣局設立に尽力する |
| 安政5年(1858) アメリカ市民権を取得 | 明治3年(1870) 「横文字の墓」建立 翌年除幕式行う |
| 安政6年(1859) アメリカ領事館通訳として帰国 | 明治30年(1897) 12月死去(60歳) 青山墓地「浄世夫彦之墓」 |

